

会議録(1)

会議の名称	令和7年度第3回飯能市地域包括支援センター運営等協議会		
開催日時	令和7年11月19日(水) 開会 午後1時30分 閉会 午後2時50分		
開催場所	飯能市総合福祉センター 3階 会議室1		
会長氏名	大野 康		
出席委員	石川 友仁 大野 康 大野 泰規 齋藤 明 黒見 恵 角田 七重		
欠席委員	池田 徳幸 打田 瑠美 小田 晋平		
傍聴者の数	なし		
会議次第	別紙のとおり		
配布資料	別紙のとおり		
事務局	福祉部長 五十川 美也子 介護福祉課長 堀川 和義 主幹 佐野 誠治 主幹 鈴木 雅之 主査 岡部 美ちる 主査 小川 達也 主任 粕谷 健悟 主事 大松 春乃 主事 野部 斐杜		

会議録(2)

議事の概要（経過）・決定事項

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1) 地域包括支援センターの活動状況等について
 - (2) 地域包括支援センターの今後の方向性等について
 - (3) 地域密着型サービス整備事業者の選定について
 - (4) その他
- 4 閉会

会議録(3)

発言者	発 言 内 容
介護福祉課主任	(開会)
会長	(あいさつ) 「(1) 地域包括支援センターの活動状況等について」を議題とする。
介護福祉課主幹	(資料1・2に基づき説明)
会長	議題(1)について質問・意見を伺いたい。
各委員	(なし)
会長	「(2) 地域包括支援センターの今後の方向性等について」を議題とする。
介護福祉課長	(資料3に基づき説明)
会長	議題(2)について質問・意見を伺いたい。
委員	各地域包括支援センター間の高齢者人口の均等化を図ることは、重要であると思う。現場で活躍している職員からも人員が不足しているとの話を耳にしている。また、地域包括支援センター職員の高齢化にともない長距離運転等が難しいケースがある。そのため法人としても、訪問する地域性によって配属する職員を考えなければならないと感じた。
委員	この問題については、現場の職員がどう感じるかが最重要である。地域との関係構築を特に重んじてきた。山間地域等との関係性は非常に長い年月をかけて形成してきた軌跡がある。そのため、管理者を主体として現場の声をうまく汲み上げ、担当割を考慮いただきたい。割振りについては、各地域包括支援センターがそれぞれ検討するのではなく、地域包括支援センター管理者会議等の全体の場で検討していくべきである。
委員	高齢者人口の割振りについては、人口だけではなく地域性も考慮するのがよい。地域ごとに線引きをして、割振りを決めるので

	はなく、現場の声を大事にしていただきたい。この取り組みにより地域包括支援センター間での引継ぎに膨大な時間を要するため、事前準備の時間もしっかりと考慮いただきたい。事前に方向性の大枠を市でお示しいただいて、細部に関しては現場の職員の意見により決定していくのがよい。また、すこやか福祉相談センターの割振りについても同時に検討いただきたい。
委員	各地域包括支援センターの方針によって所属職員の数に違いがあるがどうお考えか。
介護福祉課長	今後、現場の声を聴くためのアンケート実施や地域包括支援センター管理者会議等での検討を通じて、方向性を決めていきたい。また、検討には時間を要し、再編後の引継ぎ等にも慎重に対応するため、遅くとも飯能市介護保険事業計画及び老人福祉計画第10期計画に組み込んでいきたい。
会長	飯能市は、街と山間部の共存により発展してきた歴史がある。今後も支援者側の考え方だけで判断するのではなく、地域住民の声にもしっかりと耳を傾けたうえでこの問題を解決する指針を示していくべきである。
会長	「(3) 地域密着型サービス整備事業者の選定について」を議題とする。
介護福祉課主幹	(資料4に基づき説明)
各委員	(なし)
会長	「(4) その他」を議題とする。
部長	緊急財政対策について説明する。福祉部門においては、法定で定められた事業等においては今後も社会保障費が伸びていく。こういった必須事業を絶やすことなく実施していくため、市の独自事業について一部廃止、縮小をしていく方針である。
会長	質問等あるか。
各委員	(なし)
副会長	(あいさつ)

介護福祉課主任	次回、令和8年2月18日（水）13時30分より総合福祉センター会議室1で開催予定である。
会長	(閉会)
議事のてん末・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。	
令和 年 月 日	
会長の署名 _____	